

平成26年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

1 学校の教育目標	1 自己の個性を伸ばし、意欲的に学び続ける人間の育成		
	2 自主自立の精神を持ち、社会の発展に寄与する人間の育成		
	3 心身ともに健康で、心豊かなたくましい人間の育成		
2 今年度の重点目標	1 キャリア教育の充実	3 特別支援教育の充実	5 生涯学習講座の運営
	2 人間の在り方生き方を考える生徒指導の充実	4 危機管理体制の整備	
3 昨年度の成果と課題	1 進路決定率は定通とも目標を達成したが、今年度も継続して、キャリア教育の充実を図り、質的な向上も含めて、目標の達成を図る。		
	2 出席率や読書活動を除くとほぼ目標は達成されているが、目標を達成するために必要な取組、組織的な対応などに注目した評価を行う。		

評価基準 A：達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

領域	重点目標	評価項目	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者の意見・要望
学校経営計画	・開かれた学校づくりの推進 ・信頼される学校づくりの推進	・学校評価の実施と活用 ・学校関係者評価の導入と活用 ・教育公務員としての倫理観の涵養	B	校長の学校経営方針が職員に理解され、生徒の活動に多くの改善が見られた。倫理委員会の取組も受け入れられるものだったと考える	学校評価については、重点課題を明確にし、重点、集中的な取組を行う必要がある。	B	「霞城学園高校らしさ」の共有や意味づけに力を入れてほしい。重点目標の改善課題については、改善の実施状況を明確にしてほしい。学校の取組の外部への情報発信に努めてほしい。
学習指導	・確かな学力の育成 ・確かな学修の保障	・授業評価の実施と活用 ・シラバスの作成と活用 ・面談・添削を通じた学習意欲の喚起	B	校内研究授業や授業評価の実施、面談等による学習意欲の喚起により、出席率・単位修得率が向上した。	I C Tの活用など、魅力ある授業実践の研究および授業評価の改善を図る。単位修得率向上のための更なる取り組みを行う。	B	生徒の出席率向上は高く評価される。授業評価の分析を強化し対策を行う。S N S対策の指導強化、四大への進学や就職進学などに向けた指導の充実を図られたい。
生徒指導	・人間の在り方生き方を考える生徒指導 ・いじめ防止の取組の充実	・H R活動や行事を通じた自己有用感と他人を思いやる心の育成 ・本校らしい、いじめ防止の取組の実行	B	問題行動は継続して減少し、雰囲気も落ち着いている。学校行事や部活動への参加なども良好。	新入生が落ち着くまでの指導にまだ課題がある。いじめ防止及びいじめ対応を改善しながら徹底していく。	B	いじめが少ない良い校風であるが、明らかにならない潜在的ないじめの可能性も考慮した対応を続けてほしい。S N S対策の生徒への指導強化を願いたい。
進路指導	・キャリア教育の充実	・進路情報提供と進路ガイダンスの実施 ・社会的自立に向けた健全な職業観・勤労観の育成 ・卒業予定者の進路決定率の引き上げ	B	キャリア教育の指導体制が充実し就職内定率もかなり向上した。進学にチャレンジする生徒を増やすための指導が課題。	挨拶ができる、欠席をしない、時間を守るなどの基本を更に徹底し、学校生活のさまざまな場面でキャリア教育を推進する。	B	進路指導の難しさが表れたアンケートになっているが、卒業生の進路状況に成果が見える。いわゆる「健全な職業観」で生徒を縛らないよう多様性のあることを教えてほしい。
健康安全指導	・危機管理体制の整備	・危機管理マニュアルの改訂 ・防災・不審者対策の訓練・研修の実施 ・医療相談機関との連携の強化	B	今年度より非常災害用の食糧備蓄を行った。危機管理マニュアルの改訂及び訓練・研修の実施も予定通り実施できた。	車いす利用の生徒の避難方法を明確にする。さまざまな障がいを持つ生徒への対応について、外部機関との連携強化を推進していく。	B	ビルの学校という事に配慮した危機管理を配慮願いたい。
家庭・地域との連携	・保護者や地域への情報発信 ・生涯学習講座の充実	・「霞城学園通信」「霞城通信」の発行 ・H Pを利用したの情報発信 ・魅力ある講座の編成と生徒の参加促進	B	学校行事等の生徒の活動を適宜アップデートすることができた。生涯学習講座の受講者数は、全体として生徒・一般ともに減少しており、魅力ある講座づくりが課題となる。	H Pの利用促進のために、わかりやすいスタート画面にする。生涯学習講座の内容及び運営について見直しを検討する。	B	生徒への配布物などは充実している。H Pはより工夫してほしい。生徒が発信するブログなどの活用も考えられる。生涯学習講座は一般の参加の拡大に向け検討してほしい。
特別支援教育	・特別支援教育の推進	・配慮の必要な生徒への指導体制確立 ・個別支援チームの結成	B	個別対応は評価されるが、授業での対応や様々なスキル向上などについて全体的な対応にも力を入れるひつようがある。	指導体制はつくられているが、対象生徒の認定、立ち上げのシステムの検討が必要	A	きめ細かい組織的な対応がなされていると考える。生徒全員に配慮した対応をすれば結果として誰にとっても学びやすい環境になるものと思われる。